多自然川づくり取り組み事例

タ イ ト ル	：江戸川における多自然型川づくりの現状		
水 系 / 河 川 名	：利根川水系江戸川	河 川 分 類	：大河川
河川の流域面積	：200km2	整 備 計 画 流 量	：5000m3/s(W=1/-)
セ グ メ ン ト	：2-2		
事 業	：河川改修	事業開始年度	平成ー年度
目 標 設 定	：定性的	段 階	：C(ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ・評価時)
課題・目的(主な)	：流下能力の確保、ワンド・たまり、池沼の保全・再生・創出、水際域の保全・再生・創出		
工 法 (主 な)	：掘削(高水敷)		
配慮事項(主な)	：その他		

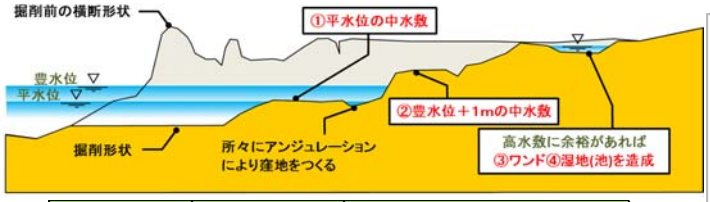
背景・課題、目標設定

＜背景・課題＞

かつての江戸川の高水敷は、ヨシ原や湿地が広がり生物の良好な生息空間となっていた。しかし、低水路の固定化により、水際部と高水敷の比高差が大きくなり、高水敷の冠水頻度が減少し乾燥化、陸地化した。その結果、湿地環境が減少しヤナギ類が樹林化するなど生態系の単一化が進行している。

また、流下能力不足の解消や堤防強化による治水安全度の向上が望まれている。

取り組み内容・対策例



①堤防強化(堤防断面の拡大)
②流下能力向上のための河道掘削
→ 築堤土(①)に利用
→ 水位状況に応じた掘削高の設定

	目的	効果
①平水位掘削	水際のエコトーン創出	湿性植物、稚魚の生育場、鳥獣の採餌場
②豊水位＋1m		鳥の止まり木、獣の巣穴、良好な景観
③ワンド(本川接続)	水域・湿地創出	水生植物、魚介類の産卵場、生育場
④湿地(本川未接続)		沈水植物、小動物の生育場 (本川とは違う独立した環境)

ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ結果、ｱﾋﾟｰﾙﾎﾟｲﾝﾄ、今後の対応方針

＜整備後の状況＞

・掘削直後～3年後までのモニタリング調査結果では、掘削の考え方の通りの目的効果が確認。
・創出したワンドや池などでは、水生生物や両生類などが見られ、鳥などの採餌場所としても使われており、関東エコロジカル・ネットワークの形成にも寄与していると考えられる。
・今後も、植物の遷移状況、土砂の堆積状況などを引き続きモニタリングしていく。

備考

問い合わせ先	関東地方整備局　江戸川河川事務所　調査課
電話番号	04-7125-7311